

## 令和元年度 第1回安来市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和元年7月10日(水) 15時30分から17時15分
2. 会 場 安来庁舎 防災対策室
3. 出席者  
(構成員) 安来市長 近藤宏樹  
教育長 勝部慎哉  
教育委員 三輪喜美代  
教育委員 加藤隆志  
教育委員 岡本亮啓  
教育委員 小村修司  
(事務局) 総務部長 清水保生  
教育部長 辻谷洋子  
教育次長 青戸厚志  
学校教育課長 成相和広  
総務課長 金山尚志  
教育総務課総務係長 足立隆博  
学校教育課学事係長 青木尚美  
総務課主幹 兒玉尚子  
(司 会) 総務課長 金山尚志
4. 欠席者 なし
5. 傍聴者 1名
6. 議 題 (1) 安来市教育大綱の改定について  
(2) 学校配置の適正化について  
(3) 学力向上に向けた取組みについて  
(4) ふるさと教育の推進について

### 7. 内 容

#### ○金山総務課長(事務局)

ただ今から、令和元年度第1回総合教育会議を開催いたします。議事に入るまでのところは、総務課で進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、近藤市長からご挨拶をいただきたいと思えます。

#### ○近藤市長

令和元年度第1回安来市総合教育会議の開催にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。教育委員の皆様方におかれましては、平素より本教育行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、近代学校教育は、我が国の目覚ましい発展の原動力となってきました。

本市におきましては、他市に先駆けて実施した市内小中学校へのエアコン設置をはじめ、中学生までの子ども医療費助成、就学支援、ICT環境の整備、グローバル人材育成のためのALTの増員、センター方式給食への移行に向けた整備などに積極的に取り組んでいると

ころです。

ところで、本年4月に、台湾新北市新店区の区長との会談の会場となった荘敬（そうけい）高級工業家事職業学校を視察しました。多くの留学生を抱える生徒数約4千人の私立の実業高校で、コンピュータで対戦するeスポーツでは世界的に活躍する選手も輩出しています。教室で生徒達が世界を目指して切磋琢磨している姿が印象的で、グローバル人材の育成の重要性を改めて感じたところでもあります。

このたび開催されます総合教育会議は、地方教育行政法の平成26年改正に伴い、首長と教育委員会が、相互の連携を図りつつ教育行政を推進するために設置されることとなったものです。

本市におきましても、これまで教育大綱を策定し、部活動や子どもの貧困、いじめ対策等について意見交換をしてまいりました。

本日の議題は、教育大綱の改定、学校配置の適正化、学力向上の取組み、ふるさと教育の推進の4つとしております。特に、教育大綱は計画期間の終期を迎えており、次期計画の方向性について意見交換をしたいと考えております。

教育政策の方向性を共有し、子どもたちが将来への夢や希望を育み、生きていく力をしっかりと身につけることができる教育環境を構築しなければならないと考えています。

委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、簡単ではございますがごあいさつとさせていただきます。

#### ○金山総務課長（事務局）

それでは、会議に入ります前に、本日の資料を確認させていただきます。資料は事前配布させていただいております。まず、次第が表紙のものがありまして、その後に資料を添付しております。資料は、右上に資料番号がふつてありますが、資料1が枝番で1-1から資料1-6まであります。資料2から資料4は、それぞれ枝番なしの1つずつとなっています。最後に、A4判1枚の「意見記入用紙」を当日配布しております。

本日の会議終了時刻は、概ね17時を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、安来市総合教育会議設置要綱により、市長に議長としてこの会議の進行をお願いいたします。

#### ○議長（市長）

それでは、お手元に配布してありますレジメに従って進めたいと思います。

まず、議題（1）「安来市教育大綱について」の説明をお願いします。

（挙手）

#### ○青戸教育次長（事務局）

安来市教育大綱の取り組みについての説明をさせていただきます。資料1-1の1ページをお願いします。

現在の大綱につきましては、平成27年度にこの総合教育会議で4回にわたり協議して策定しました。

安来市の上位計画であります「第2次安来市総合計画」の前期基本計画が31年度までとしていることから、この大綱の期間は平成28年度か31年度までの4年間としております。

2ページに載せておりますが、その基本理念を「ふるさとを愛し、未来をたくましく拓

き、社会に貢献する、心豊かな人づくり」としております。

3ページをご覧ください。3つの基本目標と重点的に取り組むことをあげております。

基本目標1「知育」として確かな学力を育てる教育の推進としてあげており、重点として学力の向上やALT派遣事業などの国際理解教育等としております。

基本目標2「徳育」として豊かな心を育てる教育の推進としてあげており、重点としてふるまいの向上、人権・道徳教育としております。

基本目標3「体育」として健康な心身を育てる教育の推進としてあげており、重点として体力作り、食育などとしております。

これらの3つの目標を支えるベースとして実施しておりますのが4ページにあります。

一段目の「学び環境の充実」としてハード面としての学校施設の充実、たとえば普通教室のエアコン設置や施設改修、またICT環境整備事業や各学校での特色ある教育活動等を実施しております。

二段目の「ふるさとの豊かな自然、ひと、もの、ことを通した教育の推進」としてふるさと教育、キャリア教育などを実施しております。

三段目の「組織体制の推進」として、幼稚園から中学校までの相互の連携体制づくりや、現在は共育協働事業と言っておりますが学校、家庭、地域が連携して取り組む体制の充実を図っております。

これらにつきましては、資料1-2がありますので参考としていただきたいと思います。

(挙手)

○金山総務課長（事務局）

教育委員会から教育大綱の取り組み状況の説明をいたしましたので、私からは、次期教育大綱の策定について、資料1-3から資料1-6を用いてご説明させていただきます。

資料1-3の「安来市教育大綱の改定について」をご覧ください。

まず、1の「改定の趣旨」についてご説明します。教育大綱は、地方教育行政法の平成26年改正により策定が義務付けられ、本市におきましては、平成28年2月に資料1-1の大綱を策定しました。この大綱は今年度を終期としているため、本市教育行政を取り巻く環境の変化等を踏まえ、来年度から始まる次期大綱を策定するものであります。

次に、2の「実施期間」についてご説明します。大綱が対象とする期間については、法律で定められていません。現在の大綱は、本市の最上位計画である「第2次安来市総合計画」の前期計画に合わせ4年間としております。現在、総合計画の後期計画を策定中ですが、6年間とする見通しですので、大綱も同様に令和2年度から令和7年度までの6年間としたいと考えております。

次に、3の「位置付け」についてご説明します。資料1-6として総合計画の前期計画の教育関係部分の抜粋をつけております。総合計画は本市の最上位計画ですので、この計画の方向性を踏まえ、本市の教育行政の方針を示します。なお、総合計画の後期計画は現在策定中であり、併行して策定作業を進めていくこととなります。

また、国の教育振興基本計画の基本的な方針を参酌して定めることとなっております。

資料1-4として「第3期教育振興基本計画（概要）」を添付しておりますが、策定にあたっては裏面の「教育施策の目標」等を参考にまいります。

次に、2項目、4の「改定（案）」についてご説明します。

大綱の記載事項は、法律上「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策」を記載するものと規定されていることから教育、文化、スポーツも対象となりますし、首長が権限の有する幼児教育・保育の充実なども考えられますが、地域の実情に応じて策定されるものとされています。現行の大綱は、「知育」、「徳育」、「体育」の3本柱からなる主に学校教育を対象としたものになっております。

資料1-5の「島根県の教育大綱」をご覧ください。学校教育のほか、青少年健全育成、生涯学習、スポーツ文化振興、人権尊重や国際化、文化財の保護活用、子育て支援を網羅した法律に沿ったつくりとなっております。本市においても、すでにこうした取り組みを積極的に推進しているところであり、次期計画は、1丁目1番地である学校教育の充実はしっかりと位置付けることはもとより、生涯学習や文化振興、子育て支援、人権尊重、国際化、平和教育などを網羅したものとしたいと考えております。

策定にあたっては、5の「検討体制」の記載のとおり、関係課と連携をとり策定してまいります。

最後に6の「スケジュール」についてご説明します。本日、次期教育大綱策定の考え方をご説明し、委員の皆様からご意見があればお伺いして、10月頃にたたき台となる「素案」をお示しし、再度ご意見をいただきたいと考えております。そして、頂いたご意見や併行して策定が進められている総合計画後期計画や県教育大綱の状況も踏まえ、2月に最終案をお示しします。その後、3月の市議会文教福祉委員会に策定した大綱を説明したいと考えております。

以上ご説明とさせていただきます。

○議長（市長）

説明が終わりました。何かご意見はありませんでしょうか？

○議長（市長）

私からお聞きします。子育て支援の充実は福祉分野ですね。これは、県が入れているから市もいれるということですか？

○金山総務課長（事務局）

文部科学省の研究会が著した解説書に認定子ども園を通じた幼児教育・保育の充実とあり、こういったものが考えられるということです。

○議長（市長）

県が入れるからといって必ず市も入れないといけないことはないと思います。子育て支援は幅広い教育分野には入ると思いますが、福祉分野ではないかと考えます。

○勝部教育長

安来市も共育協働事業を実施していますので、福祉の分野に限らず、家庭教育も含めて、家庭・学校・行政機関、とにかく地域を挙げて子ども達を教育に関わっていこうという流れですので、学校教育以外でのいろんな活動が教育に繋がると考えられます。

○議長（市長）

教育といっても学校教育ばかりではなく、社会教育などいろんな分野があることは分かります。

青戸次長、国の教育大綱にもこの分野が入っていますか？

○青戸教育次長（事務局）

資料1-4の国の第3期教育振興基本計画（概要）の裏面の基本的な方針4 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築するということが書いてあります。

○辻谷教育部長（事務局）

子育て支援というよりも、幼児教育が教育分野になろうかと思っておりますので、その部分で教育大綱に入れる必要があると考えております。

○議長（市長）

島根県の教育大綱には、「若い世代が島根で、結婚し、子どもを産み育てることができるよう環境を整備し、誰もが子育てしやすいと実感できる島根を目指します。」とあります。国の基本計画には先程の基本的な方針4の測定指標・参考指標に生活保護世帯、ひとり親家庭の子供などが書いてあります。教育にも幼児教育などいろいろあります。ただ、福祉分野にならないかという心配はあります。

○金山総務課長（事務局）

県の教育大綱も今年度が終期となっており、これから改定の作業に入るため、今後変わってくることも考えられます。

○議長（市長）

わかりました。他にはありませんか？

○金山総務課長（事務局）

本日は時間もあまりありませんので、お気づきの点がありましたら、お配りした意見記入用紙にてご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いします。

○議長（市長）

総務部長さんいかがですか？

○清水総務部長（事務局）

内容については問題ないと思われまして。今後微調整しながら進めればよいと思います。

○議長（市長）

委員さんからは何かありませんか？では、意見がありましたら意見記入用紙でご提出をお願いします。

○議長（市長）

続きまして、議題（2）「学校配置の適正化について」説明をお願いします。

（挙手）

○青戸教育次長（事務局）

1 ページは、現在の安来市内の小学校17校、中学校5校計22校の配置図と、施設等の建築年月であります。

2 ページは、令和元年度5月1日現在の各小中学校の児童・生徒数の一覧であり、児童生徒数は中学校が1,029名、学級数が37、昨年が1,052名、38クラスでしたので23名の減、1クラスの減であります。小学校が1,875名、学級数は103であります。昨年は児童生徒数が1,921名、学級数が104でありましたので、人数で46名の減、学級数で1の減であります。

3 ページから7 ページまでは、令和元年度から11年度までの各小学校の児童数と学級数

の想定される推移を示しております。右下の欄に記載しておりますのは、複式学級となります児童数を載せておりますが、一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられて島根県基準によるものであります。

1 ページの3校につきましては、今後も複式学級になることはない状況で推移していると考えられます。

4 ページ以降を見ていただきますと黄色く網掛けしておりますのが、令和元年度は実績であり、2年度以降は複式学級となることが想定されている各学校の推計であります。

各学校により、今後も黄色の網掛け部分が恒常的にある学校や、生まれた年の児童が少ない年代だけが、複式化になる学校もございます。

本日、視察された宇賀荘小学校は今後も3年生以上は複式学級で推移するのではないかと考えております。

この資料を基に、複式学級のメリット、デメリットなどを踏まえてご議論をお願いしたいと思っております。

○議長（市長）

説明が終わりました。委員の皆さんのご質疑、ご意見をお願いします。

○議長（市長）

本日の議論は、どうしようという話ではないですね。

○青戸教育次長（事務局）

はい。皆さんにご意見をいただいて、複式学級の良い点、悪い点などをお話いただけたらと思っております。

○議長（市長）

行財政改革もありますが、複式学級の教育的な影響などそのような話ですね。

○加藤委員

先程小学校にも行かせていただきましたが、こうして見ると、子ども達の人数が急激に減る地域もあればここ10年は何とか横ばいのところもあります。

全国的な流れとしては、今後小中一貫校を新設していくことも考えられますが、このことに対して市長さんはどのようにお考えですか？

また、現在、安来市教育委員4名おりますが、どこまで我々が関与していくべきであるか、そういったところのお考えをお聞きしたいです。

山間部の地域で廃校が考えられる地域については、前回、前々回も発言させていただきましたが、なるべく早く検討委員会のようなものを立ち上げられて、少しずつでもいいので地域の方に相談会において意見交換などをしてスムーズに事が運ぶようにしないとイケないと思っております。新聞でも見たことがあります、いきなり廃校だと言われ混乱してしまい大変な状況になったところもあります。

これは1年2年でできることではありませんが、親切丁寧な説明をしてあげられるといいと思っております。

○議長（市長）

ご質問の1点目の小中一貫校教育についてですが、現在のところ考えてはおりません。

これは、ある程度人数がいなくてできませんので具体的なことは考えておりません。

都会では小中高校まで一貫校がありますし、もう少し研究してみないといけないと思います。小規模校の統廃合については、教育委員さんには実情をまず認識していただいて、次に議会、それから地元でこういう状況ですよということをお知らせしないとイケません。

今、幼稚園が2園休園しています。これもやはり、地元で何回も何回も説明をして、理解を得ています。

教育の面から言いますと、百年以上も前から地元の人達が一生懸命整地して、地元の材木を使って作られた大切な学校です。ただ、今は少子高齢化であり、行政コストはかけられませんが、最終的には市民の負担になります。市の財政が圧迫されれば、市民税なり固定資産税なり介護保険料なり上げなくてはならなくなります。このことは、市全体で考えていかなくてはなりません。教育が大事だといひ、いつまでもそのままいけば財政が圧迫されます。最初の段階で、こういう学校がありますよということを教育委員さんに示し、いろいろな方法で住民に伝わるようにしないとイケないと思います。いきなり学校にそのような話がいくと大変なことになるので、加藤委員さんが言われたように、じわじわイケないと考えています。

それともう一つは、団地が造成されたため、人数が減らない地域が増えたりしています。

島田の和田南も造成中です。必ずしも減っている地域だけではないという状況であり、その辺りも見極めながら統廃合に入っていくとイケないという段階にきていることを情報提供させていただき、意見交換をしたいと考えます。

そろそろ、いろいろやっつけていかないと維持費が大変です。子どもが十数人で先生が5、6人といったところは建物維持管理が大変です。それでしたら、都会のように電車で通学してもらえば簡単なことです。子どもにとっては簡単ではないかもしれませんが、それぐらい財政が圧迫していることを考えていかないとイケないと思います。

幼稚園の場合は結構理解していただいています。住民が対象の園児を地元の幼稚園などに預けないで、職場の近くに預けているからです。20人位いるのに地元の幼稚園などに預けているのはわずか5人程度であったりしています。原因は住民の皆さんが地元で預けないということですので、そういう場合は、休園は仕方ないということで理解していただいています。

学校の場合はそういう訳にはイケないので、地元の人に理解していただくことは大変です。明治時代に地元で作った学校ですから尚更です。少子高齢化はこれから財政問題に関わってきて、最終的には市に負担がかかってきます。

○加藤委員

仮に小中一貫校にするという地域があるとすれば、小学校と中学校の両方の免許がいると思います。一昨年、福井県に視察に行った際にはその視察先の学校の先生はそれぞれ両方の免許をお持ちだったと思います。島根県もそうでしょうか？

○議長（市長）

島根県の小中一貫校についてはどうですか？

○成相学校教育課長（事務局）

八束学園が小学校と中学校の一貫校で、義務教育学校としてスタートしています。附属小学校と附属中学校も一貫校にしましたが、少し形態が違っています。次は玉湯学園が玉湯小

学校・玉湯中学校・大谷小学校も含めた小中一貫校として出来ることになっています。

先程、免許の話がありましたが、これは人事の時に希望をとり、免許をもった者で構成していくことが行われます。

○議長（市長）

八束は八束町（大根島）ですね。地域がある程度まとまっていて、やり易いと思います。いろいろ勉強してみないといけません。

○加藤委員

母里小学校と伯太中学校はお隣ですがどうでしょうか？

○議長（市長）

他にもいろいろ意見を言っていただけませんか？

○小村委員

安来市は現在4万人弱ですね。10年後の安来市の人口推計がありますか？

○青戸教育次長

今手元には持ってありません。

○小村委員

財政が破綻するとか懸念されますが、これからどれくらい人数が減っていくのかと思いまして知りたかったところです。

人口推計を見て、統廃合を考えていかないといけないと思います。

○議長（市長）

出雲市のように外国人が増加することは人数としてはよいですが、それはそれで、いろんな教育の課題があると思います。

○成相学校教育課長（事務局）

先程の小中一貫校の話の補足です。松江市教育委員会に聞きましたところ、八束学園がなかなかプラスの面が出て来ず、苦戦しているそうです。

原因の一つに、小学校と中学校が分かれている時には、6年を目指して次に中学校へ向かうというステップを踏みますが、小中一貫校の場合これをカットして9年と考えるので小学校から中学校へ向かうときにぐっと伸びることが出にくいということが考えられます。

それから、本日宇賀荘小学校の授業公開で複式学級を見ていただきました。初めて見られた方もいらっしゃると思いますが、見られた感想をお聞きしたいと思います。

○岡本委員

本日、3・4年生と5・6年生を見学させていただきました。

それぞれの学年が一つの学級の中で勉強していますが、子ども達が集中して勉強していると感じました。それぞれの学年が違った勉強をしているにも関わらず、学習の仕方を先生がよく教えて下さっているのだと思いますが、よく身につけていて、自分達で学びあうという感じで取り組んでいるように思われます。

○議長（市長）

他にはありませんか？

○勝部教育長

今年、全国の都市教育長会の中で富山県南砺市の発表を聞きました。



南砺市の方も小さな学校がありまして、複式学級で勉強しているということのようですが、学習状況調査の結果は富山県で1, 2番だそうです。そこは、ICTを駆使して授業をしています。先方のもう一つの学校の授業風景も見ることができ、自分達の風景も相手から見える大画面を使って授業をしていました。八つの町が一つの市になったということで、補助もあるかとは思いますが、複式であると学力が下がるということではなく、方法によってはかなり違いが出てくるのではと思われます。

予算もつきましたので、安来市の中でも広瀬の小さな学校については今後ICTを使っての授業をやろうとしているところであります。

○議長（市長）

複式学級は変則的なものであります。仮に20人ずつ子どもがいて、複式学級の方がメリットがあるから1学年40人のクラスになるというものでもありません。人数が少ないので変則的にやっているというものであります。教育長さんが言われたように、工夫をしてデメリットをなくして、逆にそれをプラスにしている南砺市のようなところもあります。基本的には、変則的なものですのでなくした方がよいと考えていますが、人数がいまないので、デメリットが出ないようにしていかなくてはならないと思います。

今日はいろいろな意見を聞く機会にしたいと思います。

○加藤委員

複式学級の授業は私も初めて見学させていただき、私は率直に言うと良かったなと思います。

確かに先生は行ったり来たりなので、抜けられると子ども達だけの時間になりますが、慣れているのか子ども達同士で話し合いをしながら授業を進めているし、主体的にやっているというような姿が出来てきていると感じます。

我々が経験してきているような授業スタイルではなく、先生がいない時間、時間を決めて話し合いをし、答えを導き出すという深い学びに繋がっているのかなと思います。

中には6人中1人くらい答えるのに少し時間がかかる子どももいますが、グループで話し合っている時間もあるし、すぐに間違いを指摘することはなく、少し様子を見ながら答えを導き出すという良い時間を過ごしているように思います。

○市長（議長）

他に何かございませんか？

○小村委員

だいたい、同じですが5・6年生となると先生がおられなくても、ある程度授業が進めることが出来るようになっていっているように見受けられました。

このような形であればメリットも多いと感じました。

○市長（議長）

この件に関しては、今後継続して議論をし、小中一貫校、或いは統廃合などいろいろなことを話し合いたいと思います。

複式学級については、その中で最大限の効果は上げているとは思いますが、変則のことでありますのでそのことを認識していかないといけないと思います。

この議題について本日のところはこのあたりで終了したいと思います。

○市長（議長）

続きまして、議題（3）「学力向上に向けた取組みについて」説明をお願いします。

（挙手）

○成相学校教育課長（事務局）

先程の件で一つだけ付け加えさせて下さい。

宇賀荘小学校は複式の研究指定を2年間受けていますので、学校自体が研究を進めている学校であります。

では、資料3をお願いします。学力向上に向けた取組みということで、昨年度の全国学力・学習状況調査結果の安来市の概要を持ってくるということはどうかなと思いますが、この部分も重要なことですので、資料として挙げております。

ご覧いただいていると思いますが、二重線の四角の中に分析が載っておりますので、時間もありませんのでそのところは省略をしていきます。

学力テストの結果だけを見ますと、全国と比較してみると下回っているという結果ではありません。

本市の良い所で言いますと、中学生の読書の時間が全国より上回っているということです。これは、ゲームやパソコン等で時間を取っている中では安来市の特徴ではないかと思えます。学校図書館を全校に配置していただいておりますのでその成果であると思えます。

それでは、学力向上をどう取り組んでいるかということですが、安来市教育委員会としましては、学力向上イコール授業改善だと考えています。とにかく、どの分野でも授業改善をしていく、一番時間を取っているのが授業ですのでこれを改善していくことが狙いです。

安来市の特徴としては、学力向上チーム、生徒指導チーム、特別支援教育チーム、学校図書館活用チームが本日までのところで、22校を全部訪問しています。授業を見せていただいたり、様子を話していただいたりしながら、学校を教育委員会で回って、見て、話をし、その学校の課題について一緒に話し合っ進めています。22校ですので、頑張れば回れる校数ですので、とにかく、委員会としては学校を訪問することを通して学力向上に取り組んでいます。各校で授業改善に向けた取組みが行われています。

また、この度、ICT環境整備の予算をつけていただいて、整備を進めているところですが、ICT活用も授業改善の一つです。学力向上をするために、ICT環境を整えるというふうに捉え、今進めているところです。

最後になりますが、安来市22校を訪問した報告を受けましたが、どの学校についても落ち着いて取り組んでいるとのこと。落ち着いていますので、学力向上に向けた各校の取組みに専念できると考えています。以上です。

○市長（議長）

説明が終わりました。委員の皆さんご質疑、ご意見をお願いします。

○市長（議長）

私から最初に発言させていただきます。

この学力テストの結果を見ますと、小学6年生、中学3年生とも全教科において安来市は県、全国より低いですね。市民がこれを見ると、安来市は何をしているのかと叱られると思

います。私も勿論ですが、それぐらい責任を感じてもらわないといけません。

学校とは何のためにあるかといいますと、学力を高めるためにあると思います。人間性を高めるだけであれば、何かの修行をすればいいわけです。学力を高めないと国力もない日本は今資源が0ですから、外国から資源、材料を輸入して、日本で自動車を造ったり、加工して海外へ出て、日本は飯を食っているわけです。この学力向上というものは国の至上命令であります。ロシアや中国、アメリカのように資源がふんだんにある、イギリスのように北海油田がある、アラブ諸国においてもです。日本では学力向上して、技術力を上げて、産業に力を入れていかないと死活問題です。今、サウジアラビアでも石油が枯渇するからといって、教育に力を入れていきます。日本という大きな括りで言いましたが、これは力を入れていかないとはいけません。

今日も県の教育委員会と話をしましたが、ふるさと教育とか自然と親しむとか地方とか、そのようなこともですが、もっと世界に羽ばたくとかそういった志を持って勉強をさせないといけません。ふるさと教育や人間性も勿論大事ですが、内向きの傾向があるように感じます。

○勝部教育長

これはホームページで公開しています。

○議長（市長）

市報は見ますが、ホームページは見ない人もたくさんいます。お年寄りもあまり見る人が多くありません。

いろいろな弁明はありますが、数字には表れていません。この結果は、我々市長をはじめ、重く受け止めないといけません。受験地獄はいけないとか言う人もありますが、それはまた別の話です。受験が厳しかった頃の方が非行は少なかったと思います。目標がないから、今は、友人を刺したりする子どももいます。学力は上げていかないとはいけません。青森県、秋田県では成果が出ています。

一昨日ある校長先生が話をしていますが、島根県全部合わせても東京大学に少ししか入っていません。東京大学が一つの目安ではありませんが、最後に行き着くのは学力の低下であると思います。

中海宍道湖大山圏域で出雲市、松江市、安来市、米子市、境港市で県立高校の10パーセントをフリー校区にして、いろいろと競争して、以前のように活性化できないかと思っています。それも真剣に考えていかなければと思っています。

○岡本委員

今、成相課長から説明を受けまして、いろいろな学校を回って授業を見られて、授業改善に活かしているとのことでしたが、そうした横の繋がりをきちんと取っていただきたいと思っています。

資料3の3「結果を受けて」の「学校で」のところ、1人1人の9年間を見通した教育を大切にしないといけないということが書いてありますが、そのところが、学校の先生も忙しくて、1年間で終わってしまっているという状況で難しいと思いますが、できたらそういうことを充実させていけるような方向で1人1人を大事に見通して、1人1人の学力を高めて、全体を高めていくということが必要かと思っています。

分析の中にもありましたが、学力の低い子ども達において少しずつ底上げが計られているということではありますが、学力の高い子どもがもっと勉強したいと思うような取組みが大事かと思います。

○小村委員

子どもが今中学生です。

学校教育については内容がどうこうということは申し上げにくいですが、基本は家庭教育かなと思います。家に帰ってどう過ごすかということですが、我が子もですが、安来市、島根県の子どもは家庭学習がすごく少ないと思います。家庭で自主的にできなければ、塾に行くという発想もあって然るべきかなと思います。

米子市の方とお話する機会がありますが、小学生の頃から塾に行かせていますが安来はどうですかと訊かれますが、こちらは近くに塾がないので行っている人があまりいないと話しています。親の意識の差かもしれませんが、安来市や島根県はおんぼらとした人が多いのかなと思います。学力テストが全てではないにしても比較する指標がないので、仕方ありません。塾に行かずにスマホやメディアに依存している子どもが増えているのではないかと思います。子どもの友達などを見たりしていると夜中にラインを送っている子ども達がいるようですし、せめて義務教育の中では親がきちんと管理していかないと、勉強に向かう環境づくりはできないのではないかと思います。

家庭への呼びかけも大事だと思います。

○議長（市長）

以前、安来市は安来高校1つしかなく競争がないということで、もう1つ県立高校を作ろうということで当時の県議会議員の島田芳雄氏が情報科学高校を引っ張ってきました。

ところが、情報科学高校は種類が異なっていますので、松江市の高校のような競争はありません。

これは、教育委員会の責任というよりもそういう風土があるということです。

都会の教育ママのようなものはいけませんが、安来は向学心などが希薄のようです。

私は約45年塾をやっていました。

一番感じるのは今から40年くらい前の子どもは夜遅くまで勉強していたように思います。今はそういう子はいないです。クラスに1人くらいは松江北高校に行って、医者になろうという子はいりますが、殆どの子はそこまで勉強していないようです。

安来は無風状態です。

昔の米子東高校や松江高校などの時代は安来高校も東京大学、京都大学、九州大学に行く子どもがいました。今は中学校でもクラスに1人くらい松江北高校、松江南高校に行きますが、他はあまり勉強していないようです。

安来の特異性といいますか、そういった意味で私は中海宍道湖大山圏域で10パーセントくらいの生徒が交流すると、米子や松江に行ったりして競争が出来ると思います。

私が塾をしていたからそういうことを言っているのではなくて、塾を含めても日本は家庭学習が少ないです。

私の孫も含めて向学心を育てないといけないと思っているところです。

教育長さんどうでしょうか？

○勝部教育長

将来の人材育成のためには向学心に尽きると思います。

先生の立場で考えれば、授業改善ということになるとと思います。

子ども自身が勉強する価値というものをしっかり持たないと伸びないと思います。

それをいかに子ども自身や家庭にも理解してもらうかが大事ななと思います。

これも成績だけを比較すると、国語、算数とも低いので、言い訳のようになってしましますが、英語についてはもっと高いと思っています。

興味関心が小さい時から生まれたものについては自発的に勉強するようになると思います。

いかに早い段階からそういったことに興味を持たせるか、まだ、結果には繋がっていませんが、就学前に小学校に上がるまでにここまではしておきましょうというような目標を安来市全体で作っています。

目標を持たせるには、中学生は大学生、小学生は高校生と1つ飛んだ先を見るということが大事だと思っていて、中学生は大学に行くためにどんな高校を選んで、高校でどう過ごすか、小学生は高校に行くために中学校でどう過ごすかという見方をすることが良いと個人的に思っています。

○議長（市長）

是非、教育長さんの言われることを実施していただくと良いと思います。

○勝部教育長

中学生のプログラミングなどは島根大学などを見学するといいいのではないかと思います。

○議長（市長）

韓国のガイドさんは韓国が教育に熱心であることに自信を持っていて、日本には負けないと言っています。

台湾にも行きましたが、eスポーツも進んでおり、世界的に競争するような高校もあります。こういった高校と交流して情報科学高校も刺激を受けるといいと思います。

日本はまだ豊かさに浸かっているような感じです。今は産業がまだ60代、70代の人の惰性でもっており、ノーベル賞も受賞したりしていますが、これから先は難しいと思います。

世界の有力企業2,000社の中のベスト10は全部アメリカと中国です。日本はトヨタが12位に入っています。技術は日本より進んでいるところがたくさんあります。

政府も5、6年前頃からゆとり教育を見直しして、難しくなってきました。

安来も頑張らないといけないと思います。

この議題についてこのあたりで終了したいと思います。

○議長（市長）

続きまして、議題（4）「ふるさと教育の推進について」説明をお願いします。

（挙手）

○成相学校教育課長（事務局）

資料4に一覧表で各校の取組みが載っています。小学校は交流センターと繋がって、中学校は共育協働活動推進事業の取組みによって地域のコーディネーターと繋がって実施しています。

ふるさと教育に関しては、安来市はしっかりじっくり取り組んでいると感じています。

安来市は地域とつながりを持ち、地域の人材を生かしてふるさと教育が実施されていると感じているところです。以上です。

○議長（市長）

荒島小学校の亀治米づくりについてですが、この間台湾に行った際に、台湾大学の農学部で荒島出身の広田亀治さんが作った米が台湾産米の原型となったことについてのお話を聞きました。このような国際的な人がおられたことは是非荒島の人に紹介したいと思います。

他にありませんか？

○岡本委員

各校の取組みを見させていただいて、それぞれの学校でしか出来ないようなことをしておられ、今後も継続して取り組んでいけたらよいと思います。

さらに、学校の学習以外の場面で1人になった時にそれぞれの子ども達がまたその地域に参加して、それを報告するというようなことが、評価できると思います。

個になった時の地域での活動というものが吸い上げられればより充実したものになると思います。

○議長（市長）

横屋にある比婆山久米神社は古事記に書いてある伊邪那美命（イザナミノミコト）の終焉の地とされており、江戸時代の本居宣長の古事記伝の中にも雲伯の堺目の比婆山ということが出てきます。

3年前の東京安来会において安来市出身で農水省の實重重実氏が、郷土の神話について、なぜそのようなことを僕らが小さい時に教えてもらえなかったのかと言っていました。

天皇崇拜とかそういったことではなく、古事記、或いは出雲国風土記に書いてある神話として、大事にしないといけないと藤岡大拙先生も言っています。

ふるさと教育で昔の神話として教えてもよいのではないかと思います。

どうでしょうか？

○勝部教育長

ふるさと学習の中に比婆山は出てきます。

○成相学校教育課長（事務局）

ふるさと学習は量が多くてこの一覧表には書ききれしていません。

○議長（市長）

分かりました。

○加藤委員

第三中学校と伯太中学校に地域防災学習とありますが、こういった内容のものですか？

○勝部教育長

避難所開設の体験学習で、要するに中学校の体育館の中に避難所を作って、実際に地区の方に入ってもらったりして、結構大掛かりのものです。

第三中学校が真っ先に取り組みました。

○成相学校教育課長（事務局）

この間伯太で見学しましたが、なかなか大掛かりなもので「避難して下さい。」というよ

うな声掛けをし、地域の人と一緒に避難所に入っていくというような流れで行っています。

防災教育を通して地域を知る、地域の人を知ることになり、みんなが助かるためには地域と地域の人を知らないといけないという意識を中学生が持つことに繋がります。

○加藤委員

主体はどこですか？

○成相学校教育課長（事務局）

学校と交流センター及び地域コーディネーターの繋がりで講師を呼んで実施しています。

○加藤委員

毎年実施していますか？

○勝部教育長

毎年実施していますが、同じことをしている訳ではありません。

市から防災避難所の開設ハンドブックを借りてきて体育館のセッティング等いろいろなことをしています。

○加藤委員

今朝、日南町に土砂災害警報が出ていましたが、もしこれが安来で起こったら何をしたらいいだろうかと思いました。

日頃から、こういった活動をしているとよいと思いました。

○議長（市長）

国の基本的な方針は、半年ぐらい前から変わってきておりまして、行政が避難させるということではなく、行政としては、協力はしますが自分達のことは自分達で守って下さいというようになってきています。

安来市も400の自治会があり、山が近かったり、川が近かったり、ため池が近かったり、避難場所も違い、何千通りにもなります。

国の方針は地域のことは地域で考えて、行政としては協力するというようなことになっています。ハード事業はある程度やっていますが、あとは住民の皆さんがそれぞれ自分の命は自分で守ってくださいということなんです。

我々もそのことを市民の方に説明し、理解を得ないといけません。

○加藤委員

テレビなどで「直ちに命を守る行動をとって下さい。」と言われますが、自分に置き換えたときにどうやって身を守ろうか、どこに逃げようかと思います。

○議長（市長）

それは各地域防災で考えてもらわないといけません。

○加藤委員

私の町内も60軒ありますが殆ど高齢で、誰がいるのか分かりません。日頃交流をしていないことの表れかなと思います。

命に関わることでですから、こういう場合は公民館に集まろうとか、訓練をしておかないといけないと思います。

○議長（市長）

普段から地域で考えないといけません。

○加藤委員

これは他の学校もした方が良くと思います。

○議長（市長）

それでは、本日の議題につきましては、以上です。事務局より、何かありますか。

○金山総務課長（事務局）

皆様、お疲れ様でした。教育委員の皆様には、活発なご意見をいただきありがとうございました。

また、この総合教育会議について、ご意見ご提案等がございましたら総務課までお願いいたします。

○議長（市長）

それでは、以上を持ちまして、令和元年度第1回総合教育会議を閉会いたします。